

11月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産量は前月に比べ増加。各地区とも入荷は回復傾向にあるが少な目である。間伐材、小径木の入荷も少ない。製材工場が原木在庫を手当てしたことによりスギ、ヒノキとも価格は上昇している。新材の時期でもあり、スギ3m柱材・中目材の応札数は増加。ヒノキ4m土台・中目材は品薄の影響と相まって価格は急上昇している。これから新材の生産に入るので取扱量は増加していく見込みである。

群馬県でも原木入荷は少なく、製材工場では原木集荷が急務になっている。首都圏の製品市場からの受注は低調である。仕事は出始めているが例年の7割程度。製材工場の製品在庫は依然として多い。貫、胴縁に荷動きが出てきたが、破風板、垂木、根太は悪い。製品価格、売れ行きとも厳しい状況に変わりはない。

2. 米材

米国内の製材品価格はコロナ前の水準に戻っているが、コロナ後の物価上昇を考慮すると、製材工場は採算分岐点近くまで来ており、各工場は減産傾向にあり、原木調達を急いでいない。米国の港頭在庫は日本大手製材の取引量の減少もあり潤沢である。一方、カナダでは夏場の山火事警戒による伐採量の減少で港頭在庫は少ないが、現在伐採は順調であり、今後在庫の積み上げが予想される。米マツ IS 級並の11積み対日輸出価格は前月比\$20 ダウンの\$940/千 SCR で決着した模様。9月の米国新設住宅着工数は前月比5.9%増の年率換算135.8万戸となった。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(11/7)は\$367/M、10月頭に比べ13.0%の下落。

9月原木入荷は120千 m^3 で今年最低、1~9月累計では1,393千 m^3 、前年同期比は21.5%減。米国からの減少幅が大きく、国内大手製材2社が仕入を減らしているものと見られる。今後も入荷量は減少する見込み。出荷は151千 m^3 と低調、1~9月累計は1,369千 m^3 となり前年同期比22.9%減。在庫は前月より減少し195千 m^3 、在庫率は1.33ヵ月。東京木材埠頭の10月製品入荷は17千 m^3 (前月比20.9%増)、出荷は15千 m^3 (同18.3%増)、在庫は32千 m^3 (同6.0%増)。中国木材鹿島工場の火災により他の米材製材工場への発注は増加している。円安による原料コストの上昇に販売価格の値上げが追い付いてお

らず、採算的には厳しい状況。

3. 南洋材

サラワク州では10月の天候回復に伴い伐採も順調。少し供給過多となり、バイヤーから価格の下げ圧力が出ているが、通貨リングットが安いのでサプライヤーは多少価格を下げてでも採算は確保している。PNGでは降雨の影響や最大輸出国である中国の需要減少もあり伐採量は減少。サバ州では一部地域は降雨の影響で伐採が滞っている。11月予想の原木入荷0千 m^3 、出荷2千 m^3 、在庫6千 m^3 。製材品入荷は22千 m^3 。

4. 北洋材

シベリア産地では今夏は例年より暑かったため、アカマツ原木の伐採、製材工場への入荷は例年より少なく、工場稼働も低調な状態が続いている。日本市場は若干回復の兆しも見えるが、肝心の中国市場が不振で生産意欲は上がらない。中東市場が活発で下級グレードが売れている。アカマツ野縁製品の引き合いが若干戻ってきたが、今後も続くかどうかは疑問である。円換算の価格帯はそれほど調整されていない。国内北洋材製材工場では垂木や小割製品の注文増に加え、野縁製品の注文も若干回復しているが、円安と産地価格硬直化で採算は厳しい状況にある。

9月の製品入荷(東京+川崎)は14.4千 m^3 と先月の反動で増加。コンテナ輸送が減った結果、月により入荷が纏まる傾向にある、出荷は14.5千 m^3 とやや上昇。在庫は42.7千 m^3 で出荷が上向いたこともあり減少した。

5. 合板

合板メーカーは生産に合わせた原木の受入制限を続けており、東日本のメーカーではスギとカラマツの仕入を調整している。価格は横ばいを維持している。米マツ丸太は日本向けをはじめ北米需要が芳しくなく価格はやや値下げした。円安傾向が産地の値下がり分を相殺している状況である。

9月の国内合板生産量は22.3万 m^3 、うち針葉樹合板は21.9万 m^3 、出荷量は22.1万 m^3 で在庫量は16.4万 m^3 となり、うち構造用合板の在庫は13.3万 m^3 と前年に比べ高水準な状態が続いている。針葉樹合板の市中価格にややバラツキが生じている。合板メーカーの建値は前月と変わらず、またハウスメーカー等向けも合板メーカーの生産調整の継続で価格は横ばいである。しかし、一部商社や問屋等で販促のための安値品も見られ、ジリ安感がある。輸入合板は当用買いが中心ではあるが、値戻しには一定の認知が進んでいる。9月の合板輸入量は前月比2.3万 m^3 増の18.6万 m^3 、対前年比92.4%で主要国からの

輸入量は増加。インドネシアでは日本からの10月成約は再びスローダウン、他市場からの引き合いは活発で成約は維持されている。マレーシアでは10月に入っても日本からの引き合いは多くない。価格交渉するも合板工場側では減産によるコスト高、接着剤の値上がり等があり、価格を調整する余裕がないため成約ができない。急激な円安により買い付け数量が減少しているため、年末にかけ品薄感が再度出てくる可能性もある。

6. 構造用集成材

第3・四半期契約分の10月のラミナ入荷量は通常の5~6割程度と少ない。在庫量も例年通りに戻りつつある。第3・四半期契約価格は€280/m³程度、第4・四半期契約は€290/m³。為替は円安傾向で輸入コストは上昇している。10月時点のラミナ入港価格は47,000円~49,000円/m³程度。各プレカット工場の在庫過多が解消されたため、受注は上向くと予想される。輸入集成材の入荷減が進み、国内集成材メーカーの受注増が見込まれる。ラミナ価格とともに円安による輸入コスト増で、今後は値上げとなる。

7. 木材チップ(東海)

原木は製紙・バイオマス発電用とも小径材の引合は強いが、全体では入荷低調で慢性的な原木不足感が強い。燃料材は解体物件の減少、作業員不足等により入荷量は減少。燃料用の消費は堅調で各社は集荷量維持に腐心している。一部大手製紙会社では用紙・板紙ともに消費不振で減産・操短を継続している。製紙用チップの消費量は減少。バイオマス発電の燃料用チップの消費は旺盛で生産量は高水準を維持している。

8. 市売問屋

記念市で客は集まるが様子見が多い。品目によっては値上がり傾向にある一方で単価が変わらない物もあるため、荷動きが悪い。都内の材木店では米マツ平角を多く使用しないので、影響はない。またヒノキKD9.0×4m、10.5×4mが米マツ製品の代わりに使用されると聞かすが、今のところ材は動いていない。

9. 小売

木材市況は底打ちしたものの需要の回復感は乏しく殆どが値上げに至っていない。米マツ製品の代替需要で国産材構造材の引き合いが増加。また4mのWW集成管柱、RW集成平角も引き合い強く、新規到着分から強含み。造作材の荷動きは非住宅頼みになっている。スプルー、米ツガは円安によるコスト高等で流通量は少ない。首都圏のプレカット工場の稼働率は9割台を維持し、大手は受注を伸ばしており繁忙期を迎えている。米マツ製品の供給制限で平

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和5年11月18日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	→	↗	↘
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↗	↗	→	↗

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	→
			スギ中丸太(3.65m)2等	→
			ヒノキ柱材(3m)2等	→
			ヒノキ中丸太(4m)2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↘
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割(サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ(KD)30×40上級	↗
		アカマツ(KD)16×40上級	↗	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 3.0×10.5×3m S4S FOHC	↗
		ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↘